

第74回目のGIS News!です



2月10日は「ふきのとうの日」です。

暦の上では春ですが、山形では余寒なお厳しく、吐く息の白さに耐えながら、春の訪れを心待ちにしている今日この頃です。

さて、今回は「本当ですか?」と聞き返したくなるような話題です。

衛星1基故障、GPS位置情報誤差

今年の1月初め、全地球測位システム(GPS)28基の衛星のうち一基が故障し、カーナビゲーションや船舶の位置情報に一時的に誤差が生じたことが分かりました。異常があったのは1月2日午前3時31分から約3時間で、衛星に内蔵された時計が異常を示したことで、通常とは異なる内容の電波が発信され、地上の受信装置が位置情報を誤って算出したとみられています。海上での誤差は最大約600kmに及びました。カーナビを搭載している車はカーナビ上の位置と実際に走行している位置が約50kmずれていたケースもあったそうです。今回は幸いにも船舶の座礁や車の衝突事故などはなかったのですが、今後のGPS活用に大きくかかわる問題ではないでしょうか。

http://www.c-crews.co.jp/gnext_express/news/0401.html

「数値地図25000」標高データに誤り

国土地理院が平成13年10月から進めてきた数値地図25000(空間データ基盤)の整備が、平成15年3月に日本全国が完了し、都府県単位(北海道は2支庁毎)で購入することが可能となりました。データの内容は道路、鉄道、河川、水涯線、海岸線、行政界、基準点、地名、公共施設及び標高の10項目からなっています。その中で、標高データに誤りがあったことが、昨年12月の国土地理院ホームページに記載されました。標高データは、それまで発行されていた数値地図50mメッシュ(標高)のデータを基に、世界測地系の2秒×2秒間隔メッシュ格子の中心点標高を計算・記録したもので、測量法の日本測地系から世界測地系への改正に伴う、変換過程の計算でこのミスが発生したようです。

「国土の位置を明確にするという国土地理院の使命を果たす上で、重大な問題であると認識しております。今後このようなことがないように、品質管理体制の点検と改善を早急に進めてまいります。」とホームページ上には記載されていました。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2003.html>

GISの基盤となる電子データを整備していくに当たり、そのデータの信頼性は精度の高さが謳われています。計測、処理していく過程をよく理解、考慮した上で誤差や計算ミスの対処方法も今後は考えていかなければならないでしょう。

次回のGIS News!

次回は2004年2月23日発行予定です。よろしくおつき合い下さい!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤 秀紀 発行日：2004年2月9日

